

圓光寺真宗関係史料 一括(28点) 追加指定

圓光寺真宗関係史料

えんこうじしんしゅうかんけいしりょう

分野／部門

有形文化財／歴史資料

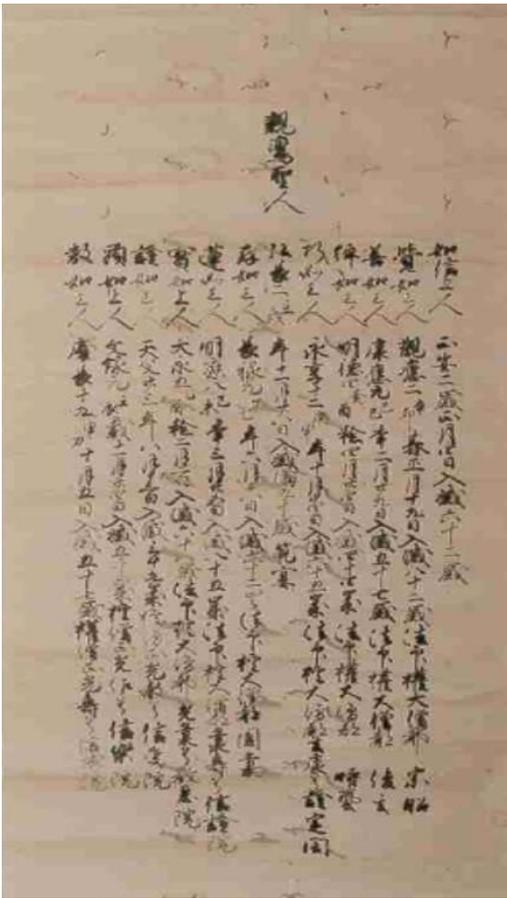
所有者

宗教法人 圓光寺(えんこうじ)

所在地

大阪市天王寺区玉造本町

紹介



圓光寺真宗関係史料

圓光寺は浄土真宗本願寺派(じょうどしんしゅうほんがんじは)の寺院で、近世の大坂市中における有数の寺院のひとつである。本願寺 8 世門主蓮如(れんにょ)に帰依した念仏行者浄空の道場を、蓮如の門弟円誓が附属(ふしよく)されたことが端緒と伝える。江戸時代には船場唐物町(せんばからものまち)に寺地をおいた。近代に天王寺区玉造に移転し、現在に至って

いる。明応 7 年(1498)に蓮如が円誓に下付した寿像(じゅぞう)をはじめとする 18 点が、既に歴史資料として大阪市指定文化財の指定を受けている。その後の調査の進捗で、蓮如証判の文明 9 年(1477)の法名書や、歴代住持の画像などを新たに確認することができた。平成 14 年度(2002 年)に指定済の史料を補完する文化財である

用語解説

浄土真宗本願寺派(じょうどしんしゅうほんがんじは) 浄土真宗の一派で、京都西本願寺を本山とする。

蓮如(れんにょ) 1415～1499 室町時代の真宗の僧。本願寺 8 世門主で、中興の祖と称される。

船場唐物町(せんばからものまち) 現在の大阪市中央区船場中央付近。

寿像(じゅぞう) 生前に作られた肖像。